

## やさしい病害虫講座 23

「矢でも鉄砲でも持ってこい！  
母は強いんだ！！」

木村 裕

春になってよく問い合わせがあるのは、「ウメの枝に赤くて玉のような物がいっぱい付着している」のは何ですか？ 答えはタマカタカイガラムシのお母さんです。ウメに最もよく発生しますが、バラ科植物に寄生するとされており、私はボケやユキヤナギでも発生を確認しています。



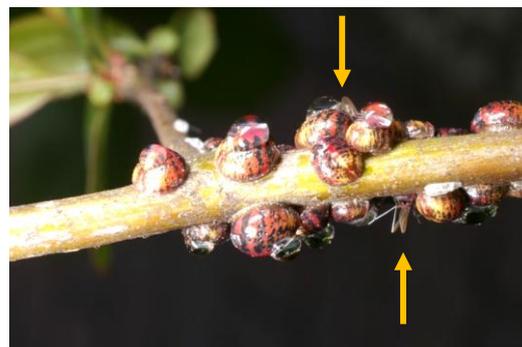
【赤褐色はメス成虫、白色はオスの蛹のぬけ殻】

通常は扁平な虫で枝にへばりついていて目立ちませんが、春になってお母さんが卵を産む準備に入ると体が丸く大きく膨れ上がります。やがてその表面は堅くなり、その内側に卵をいっぱい産みこみます。ビービー弾よりも少し大きく、直径4～5ミリくらいあります。ほとんど球状で、赤褐色～暗褐色で表面に黒い模様があります。皆さんの目にとまるのは、この膨らんだお母さんです。

5月頃、この球を枝から剥がすとパラパラと粉がたっぷり落下します。小さいので粉のように見えますがすべて卵です。虫メガネで観察してください。年に1回の発生で、6月初め頃には卵からふ化した幼虫は安全なお母さんの丈夫な殻から這い出し、散らばって付近の葉の裏に取りつきます。葉裏にたくさんの幼虫が取り付くこととなりますが、淡黄褐色で小さいので気づく人はおりません。葉裏から汁を吸いながら成長し、秋になって葉が落ちる頃になると、これはやばいと感じるようで、そそくさと枝の方へ引っ越しします。

寒い冬は枝上で過ごし、春になるとオスは蛹となり、やがて羽のある蚊のような成虫になります。メスはそのままの状態です。羽が生えることはありません。

せん。赤褐色の球の付近にたくさん見られる白い俵状のものはオスが成虫となって飛び去った蛹の抜け殻です。



【球体はメス成虫、矢印はオス成虫】

メスの球体は表面が堅くて丈夫なため、いくら強い薬剤を散布しても防除効果はありません。手で捕らえて潰すのが最も効果的な防除法です。もし薬剤を使うのなら、小さな幼虫が這い出すのが終わった7月頃が適期です。また、秋に葉が落下した頃に枝全体に散布すれば簡単かも。

また、この虫を好物とする有力な天敵、アカホシテントウムシがいます。成虫は黒紋付に日の丸模様をあしらった美しい甲虫ですが、幼虫は灰色で体全体に刺がたっぷり備えているので気味が悪く、皆さんこの虫が悪者だと思って一生懸命潰しておられますが、とんでもない間違いです。この虫が頑張っているようなら何もしなくてもカイガラムシは全滅します。大事に保護しましょう。



【アカホシテントウの幼虫】



【アカホシテントウの成虫】